

2019年4月24日

各位

ソニーフィナンシャルホールディングス株式会社  
(コード番号：8729 東証第一部)

本日、ソニーフィナンシャルホールディングス株式会社の100%子会社であるソニー生命保険株式会社が下記プレスリリースを行いましたので、お知らせします。

記

ソニー生命保険株式会社 プレスリリース (添付)  
女性の活躍に関する意識調査2019

以上

【お問合せ先】

ソニー生命保険株式会社 広報部広報課 (TEL:03-5290-6228)

## NEWS LETTER (調査レポート)

ソニー生命調べ／全国の20歳～69歳の女性1,000名にアンケート

### 女性の活躍に関する意識調査 2019

女性の4割強が「家庭で女性がイキイキと活躍していると思う」  
女性の4割弱が「職場で女性がイキイキと活躍していると思う」  
家事・育児や地域社会での貢献などを時給換算するといくらになる？  
働く20代女性の葛藤「専業主婦」と「バリキャリア」の選択肢を両にらみ？

ソニー生命では、女性の活躍に関する意識と実態を明らかにするため、今年で5回目となる「女性の活躍に関する意識調査」を行いましたので、お知らせいたします。

#### ■ POINT 1 【女性が実感している活躍シーン】(P.2)

⇒女性の4割強が「家庭で女性がイキイキと活躍していると思う」

女性の4割弱が「職場で女性がイキイキと活躍していると思う」

全回答者(1,000名)に、日本では女性がどの程度イキイキと活躍していると思うか、家庭や職場などの場面ごとに聞いたところ、『イキイキと活躍していると思う』(「非常に」と「やや」の合計、以下同様)は、「家庭」で42.9%、「職場」で37.7%、「地域社会」で29.3%、「ネットコミュニティ」で33.2%となりました。

#### ■ POINT 2 【女性が実感している活躍シーン】(P.4)

⇒家事・育児や地域社会での貢献などを時給換算するといくらになる？

全回答者(1,000名)に、日々の家事・育児や地域社会での貢献などを時給に換算するといくらになると思うかを聞きました。

平均額が高かった家事労働や地域活動を見ると、1位「(未就学児の)育児・世話」(1,488円)、2位「(小学生以上の子どもの)育児・世話」(1,230円)となり、子育て関連が時給換算額TOP2を占めるという結果になりました。以下、3位は「PTA活動」(1,098円)、4位は「食事の準備・後片付け」(1,097円)、5位は「親戚づきあい」(1,009円)でした。

#### ■ POINT 3 【女性の本音】(P.7)

⇒働く20代女性の葛藤「専業主婦」と「バリキャリア」の選択肢を両にらみ？

有職女性(619名)に、「本当は専業主婦になりたい」かどうか聞いたところ、『そう思う』は36.7%と、有職女性の3人に1人は専業主婦を志向していることがわかりました。

年代別にみると、『そう思う』は20代で53.2%と全体より16.5ポイント高く、20代女性の専業主婦志向が鮮明となりました。20代では、今後バリバリと仕事に励みたいというバリキャリア志向と、本当は専業主婦になりたいという専業主婦志向が、同程度の割合で存在しました。夫婦共働きというライフスタイルが浸透しつつある中で、夫婦で家計を担うために仕事を頑張りたいという心情と、本当は家事に専念する専業主婦になりたいという心情の両方を抱える姿が、垣間見える結果といえるのではないのでしょうか。

#### ◆アナリストのコメント◆

ソニーフィナンシャル  
ホールディングス株式会社  
金融市場調査部  
シニアアナリスト  
石川 久美子



近年、多くの問題を抱えつつも、女性の社会進出は進んでいます。それに伴い、女性の生き方は「結婚するか」「仕事を続けるかどうか」「子どもを持つかどうか」など、選択肢が増えました。さらに、仕事の仕方をとっても、どれだけキャリアを求めるか、家庭とどのような形でバランスをとるかなども、人によって大きく違います。自分がどう生きるかを、他でもない自分が決められる時代です。「どう生きるべきか」には正解はありません。ただし今回の調査によって、現状、生活の満足度が最も高いのは「有職者・子どもあり(56.9%)」という像が浮かび上がってきました(図5)。7割もの女性が「女性が社会で働くには不利な点が多い」と思っているなかで(図8)、働くことも子どもを持つことも両立できている女性は、その周囲の女性についても「イキイキしている」と前向きな評価をする傾向が他よりも強めに見られ(図1)、かつ本人の満足度レベルも高い結果となりました(図5)。

2番目に生活満足度が高かったのは「専業主婦(55.8%)」でした(図13)。ただし、その一方で、専業主婦の中でも20代の約7割、30代の約5割が「本当は外に働きに行きたい」とも考えており(図14)、かつ専業主婦の7割近くが「子育て後の再就職は厳しい」と思っているようで、危機感が透けて見えます(図17)。「どのような働き方や制度が職場にあると良いと思うか」との設問において、「子あり」の専業主婦が「子あり」の有職者よりも強く要望していたのが「在宅勤務(61.2%)」「短時勤務(54.2%)」「社内保育園(56.5%)」「子連れ出勤(32.7%)」などであることから、「子どもを預けられるかどうか」が高いハードルである様子がうかがえます(図22)。首都圏を中心に共働き世帯が増えるなか、待機児童問題の解消は簡単ではないですが、「子あり」層の社会的支援策が整うことで女性の就業ハードルが下がれば、前述のような「イキイキしている『有職者・子どもあり』女性」が増えそうです。

また、今回は20代女性の回答のバラツキも興味深い結果となりました。20代有職者の54.0%が「バリバリとキャリアを積んでいきたい」と思っている一方(図6)、「本当は専業主婦になりたい」と思っている人は53.2%と他の年代の有職者女性より高めでした(図9)。他方、20代専業主婦の中で「本当は外に働きに行きたい」は69.7%と群を抜いて高いです(図14)。「ないものねだり」感が強いようにも見えますが、これは現代の女性の生き方の選択肢が増えたがゆえに、「まだいくらでも可能性がある」「まだ生き方を決めきれていない」20代の生き方に、強い迷いが表れている結果とも考えられます。有職者・専業主婦ともに、「現在の生活に満足している」割合が最も高かったのは60代(図5、図13)。生き方を決め、納得感のある人生を送れるようになるには修行と悟りが必要そうですね。

## NEWS LETTER (調査レポート)

### 女性の活躍に関する意識調査 2019

このたび、ソニー生命保険株式会社(代表取締役社長 萩本 友男)は、2019年3月15日~3月19日の5日間、全国の20歳~69歳の女性に対し、今年で5回目となる「女性の活躍に関する意識調査 2019」をインターネットリサーチで実施し、1,000名の有効サンプルの集計結果を公開しました。(調査協力会社: ネットエイジア株式会社)

#### 【女性が実感している活躍シーン】

女性の4割強が「家庭で女性がイキイキと活躍していると思う」

女性の4割弱が「職場で女性がイキイキと活躍していると思う」

家事・育児や地域社会での貢献などを時給換算するといくらになる？

育児の時給換算額は年々上昇、「未就学児の育児・世話」は2013年調査結果から26%上昇

#### 【女性の本音】

働く女性の5割強が「現在の生活に満足している」

働く女性の4割強が「バリキャリア志向」、ワーママでは5割近く、20代では5割半と高め

ワーママの7割半が「女性が社会で働くには、不利な点が多い」と実感

働く女性の3人に1人が「本当は専業主婦になりたい」

働く20代女性の葛藤「専業主婦」と「バリキャリア」の選択肢を両にらみ？

直近4年間で働く女性の「管理職志向」10ポイント超上昇も、根強い「専業主婦志向」

#### 【職業生活での女性の活躍促進】

管理職女性の7割、管理職ワーママの7割半が「管理職になるときは不安だった」

管理職女性の5割強、管理職ワーママの6割が「管理職になってよかった」

専業主婦の本音「現在の生活に満足している」は5割半、60代では6割半と高め

「本当は外に働きに行きたい」専業主婦の3割強、20代では7割、30代では5割強

「専業主婦は苦勞が多いと思う」20代専業主婦では6割半

専業主婦の7割半が「老後の生活が心配」、7割が「子育て後の再就職は厳しい」と実感

専業主婦の生活意識に変化 直近4年間で「専業主婦は苦勞が多い」が8ポイント超上昇

“多様な働き方”推進！職場に欲しい制度 1位「在宅勤務」2位「時短勤務」3位「フレックス制」

「社内保育園」を求める女性は3割半、「子連れ出勤」は2割強

子どもがいる専業主婦が求める制度 1位「在宅勤務」2位「社内保育園」3位「時短勤務」

#### 【活躍している女性として思い浮かぶ有名人】

“活躍している女性”として思い浮かぶ有名人 スポーツ分野では「大坂なおみさん」がダントツ

芸能分野で“活躍している女性”として思い浮かぶ有名人 1位「北川景子さん」

“活躍している女性”として思い浮かぶアニメ・マンガキャラ 1位「フグ田サザエ」

“職場の同僚になってほしい男性”のイメージ 3位「江戸川コナン」、2位と1位は？

“職場の部下になってほしい男性”のイメージ TOP3には『ドラえもん』から2人がランクイン

※本調査レポートでは、ワーキングマザーを“ワーママ”と略した表現を使用しています。

# NEWS LETTER (調査レポート)

## アンケート調査結果

「女性活躍推進法」は、女性が職業生活で自身の希望に応じて十分に能力を発揮し、活躍できる環境を整備することを目的として、2016年4月に施行されました。約3年が経過した現在、女性を取り巻く環境や女性の意識や行動がどのように変化しているのか調査しました。

◆女性の4割強が「家庭で女性がイキイキと活躍していると思う」

◆女性の4割弱が「職場で女性がイキイキと活躍していると思う」

全回答者(1,000名)に、日本では女性がどの程度イキイキと活躍していると思うか、家庭や職場などの場面ごとに聞いたところ、『イキイキと活躍していると思う』(「非常に」と「やや」の合計、以下同様)は、「家庭」で42.9%、「職場」で37.7%、「地域社会」で29.3%、「ネットコミュニティ」で33.2%となりました。

就業状況と子どもの有無別にみると、子どものいる有職女性は「家庭」で49.0%、「職場」で47.8%と、全体より「家庭」で6.1ポイント、「職場」で10.1ポイント高くなりました。(図1)

(図1)

◆日本では女性がどの程度“イキイキ”と活躍していると思うか [各単一回答]

		0%	25%	50%	75%	100%	イキイキと活躍していると思う(計)	
家庭	全体[n=1000]	8.1	34.8	37.1	16.0	4.0	42.9	
	有職	子どもがいる[n=255]	11.4	37.6	30.6	16.9	3.5	49.0
		子どもはいない[n=364]	8.2	31.3	41.8	15.4	3.3	39.6
	専業主婦	子どもがいる[n=214]	6.5	36.9	38.3	15.9	2.3	43.5
		子どもはいない[n=55]	1.8	43.6	41.8	9.1	3.6	45.5
職場	全体[n=1000]	6.7	31.0	38.6	17.6	6.1	37.7	
	有職	子どもがいる[n=255]	9.8	38.0	29.4	18.8	3.9	47.8
		子どもはいない[n=364]	8.8	30.8	36.3	18.4	5.8	39.6
	専業主婦	子どもがいる[n=214]	2.3	26.2	49.1	15.0	7.5	28.5
		子どもはいない[n=55]	21.8	54.5	14.5	9.1		21.8
地域社会	全体[n=1000]	3.5	25.8	44.9	19.7	6.1	29.3	
	有職	子どもがいる[n=255]	4.7	25.5	40.0	23.5	6.3	30.2
		子どもはいない[n=364]	3.6	24.7	44.5	20.9	6.3	28.3
	専業主婦	子どもがいる[n=214]	4.2	26.2	50.5	15.4	3.7	30.4
		子どもはいない[n=55]	29.1	50.9	14.5	5.5		29.1
ネットコミュニティ	全体[n=1000]	6.9	26.3	48.1	11.6	7.1	33.2	
	有職	子どもがいる[n=255]	7.1	23.1	46.3	15.3	8.2	30.2
		子どもはいない[n=364]	7.4	25.3	50.0	11.0	6.3	32.7
	専業主婦	子どもがいる[n=214]	6.5	28.0	50.0	9.3	6.1	34.6
		子どもはいない[n=55]	7.3	30.9	41.8	14.5	5.5	38.2

- 非常にイキイキと活躍していると思う
- ややイキイキと活躍していると思う
- どちらともいえない
- あまりイキイキと活躍していると思わない
- 全くイキイキと活躍していると思わない

## NEWS LETTER (調査レポート)

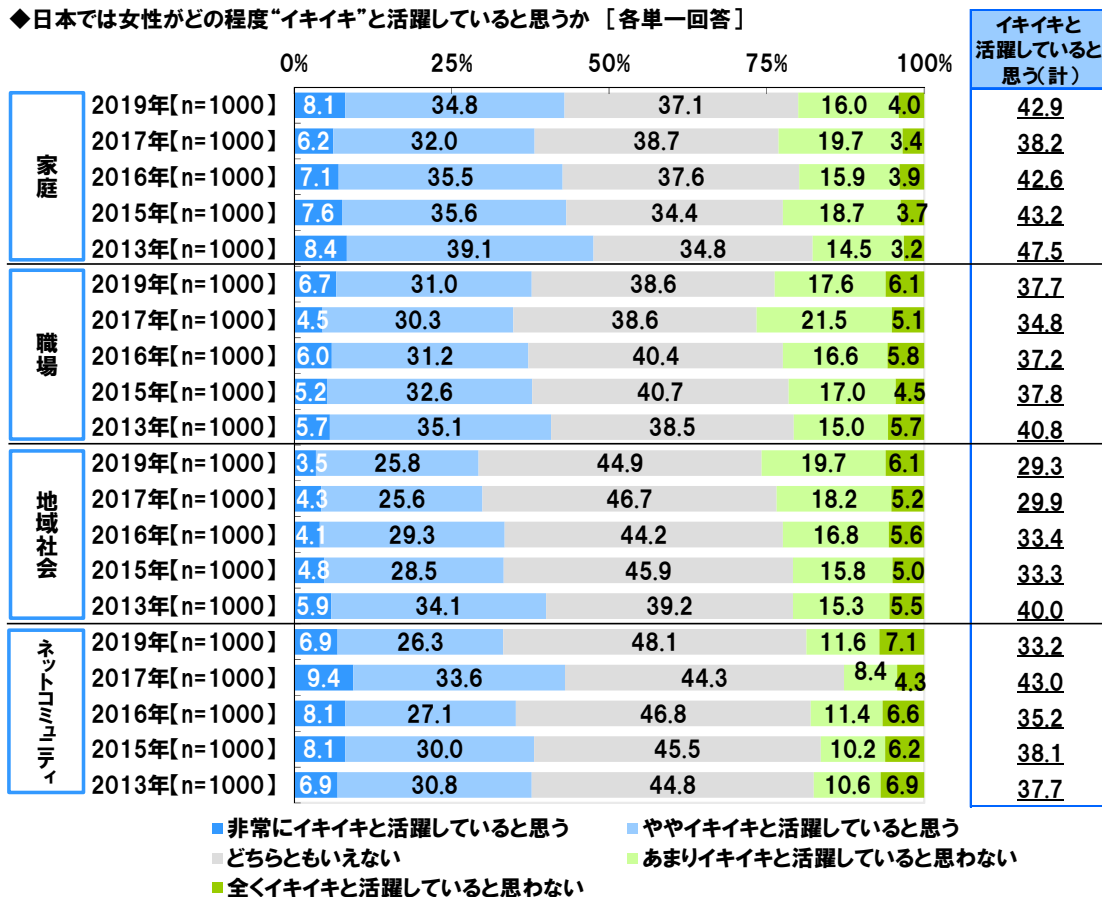
### ◆「家庭」や「職場」でのイキイキ度が上昇傾向に、「ネットコミュニティ」では“SNS 疲れ”か？

過去調査と比較すると、前回(2017年)調査では「家庭」で『イキイキと活躍していると思う』割合は38.2%、「職場」で『イキイキと活躍していると思う』割合は34.8%でしたが、今回の調査では、「家庭」は4.7ポイント上昇(今回42.9%)、「職場」は2.9ポイント上昇(今回37.7%)しました。

一方、「ネットコミュニティ」で『イキイキと活躍していると思う』割合は前回(2017年)調査では43.0%でしたが、今回の調査では9.8ポイント下降(今回33.2%)しました。「友人や知り合いの反応が過剰に気になる」「『いいね!』を義務感で押す」など、いわゆる“SNS 疲れ”を感じている女性が増えているのかもしれません。(図2)

(図2) 経年調査

◆日本では女性がどの程度“イキイキ”と活躍していると思うか [各単一回答]



## NEWS LETTER (調査レポート)

### ◆家事・育児や地域社会での貢献などを時給換算するといくらになる？

「未就学児の育児・世話」1,488円、「小学生以上の育児・世話」1,230円、  
「PTA活動」1,098円、「食事の準備・後片付け」1,097円、「親戚づきあい」1,009円、  
「掃除・洗濯」959円、「地域とのつきあい」890円、「地域社会での貢献」865円

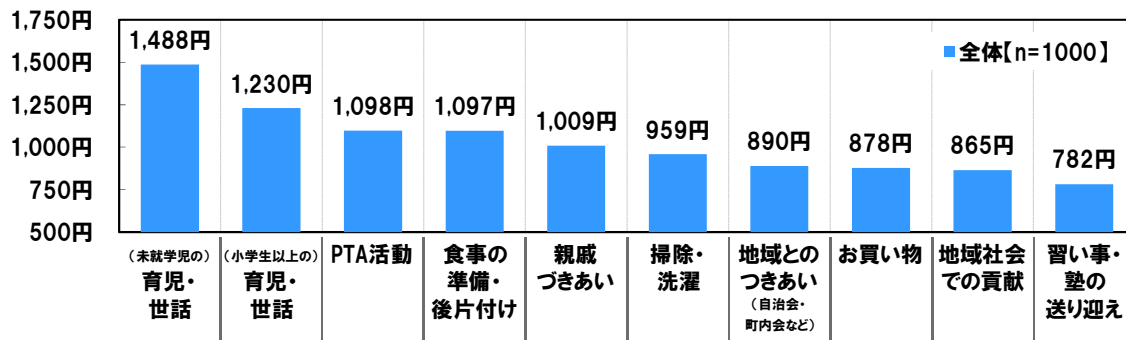
### ◆育児の時給換算額は年々上昇、「未就学児の育児・世話」は2013年調査結果から26%上昇

次に、全回答者(1,000名)に、日々の家事・育児や地域社会での貢献などを時給に換算するといくらになると思うかを聞きました。

平均額が高かった家事労働や地域活動をみると、1位「(未就学児の)育児・世話」(1,488円)、2位「(小学生以上の子どもの)育児・世話」(1,230円)となり、子育て関連が時給換算額TOP2を占めるという結果になりました。以下、3位は「PTA活動」(1,098円)、4位は「食事の準備・後片付け」(1,097円)、5位は「親戚づきあい」(1,009円)でした。責任ある対応が求められる育児や学校教育活動などが、価値が特に高いと捉えられているようです。6位以降には、「掃除・洗濯」(959円)、「地域とのつきあい」(890円)、「お買い物」(878円)、「地域社会での貢献」(865円)などが挙がりました。(図3)

(図3)

#### ◆毎日の家事や地域社会での貢献を時給に換算するといくらになると思うか [自由回答\_数値] ※平均額を表示

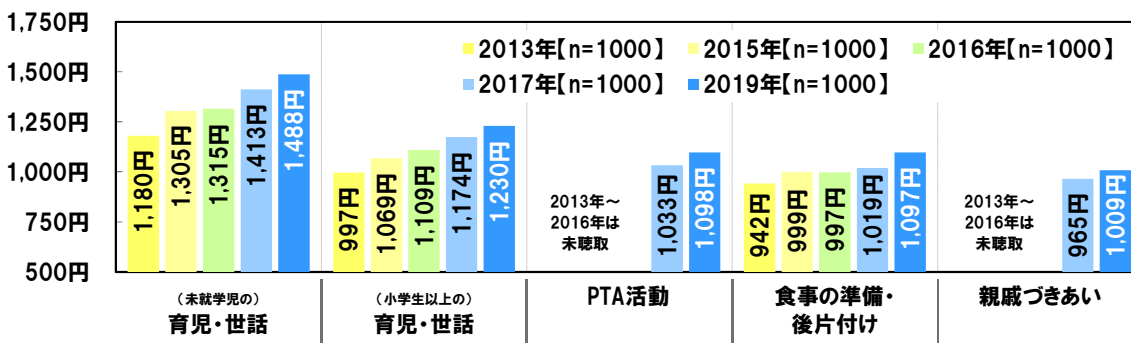


過去調査と比較すると、ほとんどの家事労働で平均額が年々上昇しています。これは「家事労働は価値や難度・貢献度が高い」という認識が、女性に浸透しつつあるという状況の表れではないでしょうか。2013年調査と比較し、上昇率が特に高かった家事労働は、「(未就学児の)育児・世話」(2013年1,180円→2019年1,488円、上昇率26%)となりました。(図4)

(図4) 経年調査

#### ◆毎日の家事や地域社会での貢献を時給に換算するといくらになると思うか [自由回答\_数値]

※2019年調査で金額が高い順に上位5位までの平均額を表示



## NEWS LETTER (調査レポート)

### ◆働く女性の5割強が「現在の生活に満足している」

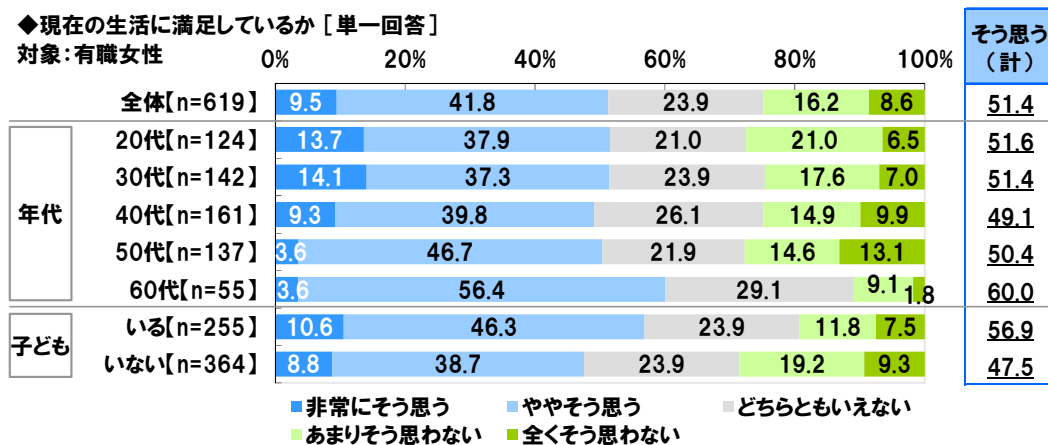
### ◆働く女性の4割強が「バリキャリア志向」、ワーママでは5割近く、20代では5割半と高め

続いて、働く女性の本音を探るため、現在の生活や今後の働き方、働く環境などについてどのように思うか聞きました。

有職女性(619名)に、「現在の生活に満足している」かどうか聞いたところ、『そう思う』(「非常に」と「やや」の合計、以下同様)は51.4%で、働く女性の半数超が生活に満足していることがわかりました。

また、子どもの有無別にみると、子どもがいる有職女性で『そう思う』は56.9%と全体より5.5ポイント高くなりました。仕事と子育てを両立するワーキングマザー(ワーママ)は、忙しいながらも充実した日々を過ごしていることがうかがえます。(図5)

(図5)

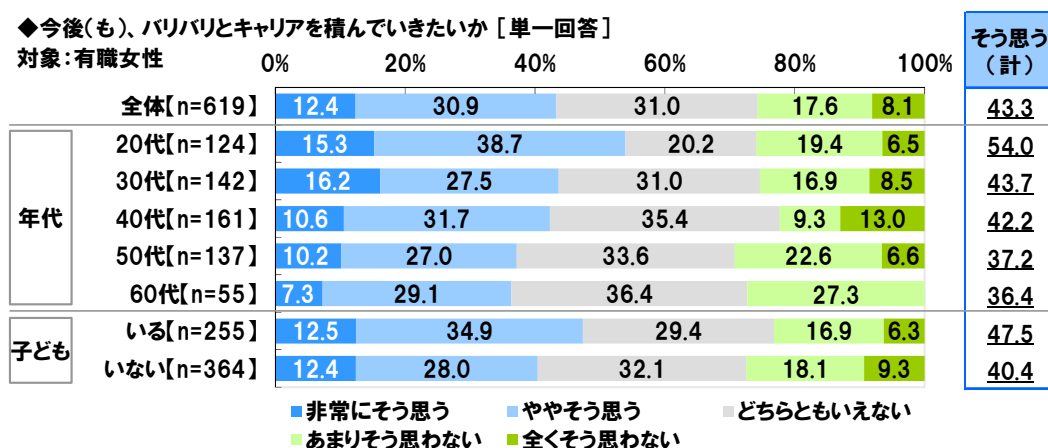


「今後(も)、バリバリとキャリアを積んでいきたい」かどうか聞いたところ、『そう思う』は43.3%で、有職女性の4割強が今後も精力的に仕事を頑張りたいと考えていることがわかりました。

年代別にみると、『そう思う』は20代で54.0%と全体より10.7ポイント高くなりました。若年女性の多くが今後もバリバリと仕事に励みたいと考えているようです。

子どもの有無別にみると、子どもがいる有職女性で『そう思う』は47.5%と全体より4.2ポイント高くなりました。前向きな気持ちで仕事に取り組んでいるワーママが多いようです。(図6)

(図6)



## NEWS LETTER (調査レポート)

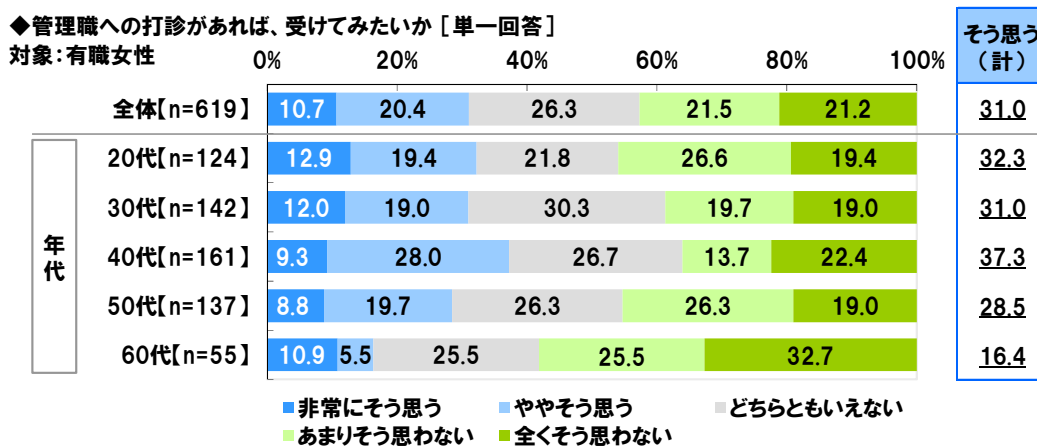
### ◆働く女性の約3割が「管理職志向」、40代女性では4割近くと高め

### ◆ワーママの7割半が「女性が社会で働くには、不利な点が多い」と実感

さらに、有職女性(619名)に、「管理職への打診があれば、受けてみたい」かどうか聞いたところ、『そう思う』は31.0%でした。働く女性の4割強が今後もバリバリと仕事に励みたいと意欲的でしたが、管理職を志向する割合は約3割に留まる結果となりました。

年代別にみると、40代の管理職志向が高く、『そう思う』は37.3%でした。(図7)

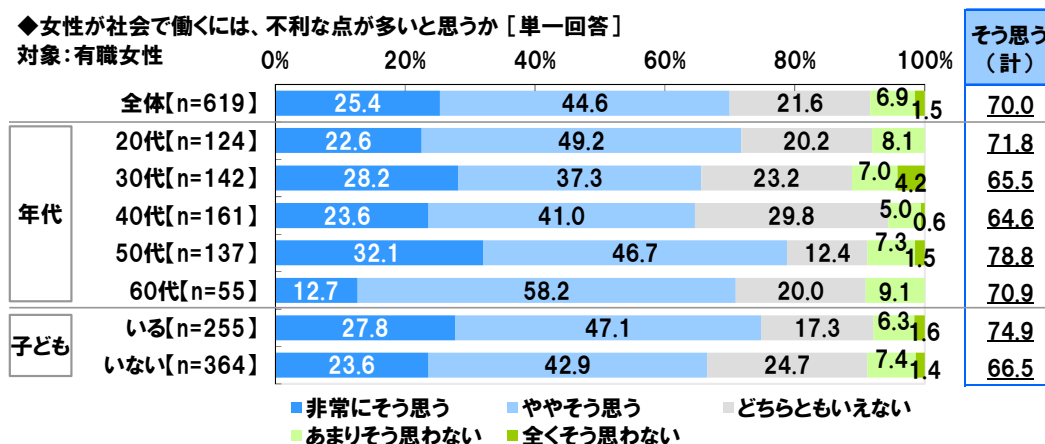
(図7)



「女性が社会で働くには、不利な点が多いと思う」かどうか聞いたところ、『そう思う』は70.0%で、働くことに不都合が多いと感じている働く女性が多数派となりました。

子どもの有無別にみると、子どもがいる有職女性で『そう思う』は74.9%と全体より4.9ポイント高くなりました。ワーママの7割半は女性に不利な点が多いと感じているという状況が明らかになりました。現在働く環境において、仕事と子育てを両立していく難しさを実感する機会が多いのかもしれません。(図8)

(図8)





## NEWS LETTER (調査レポート)

### ◆働く女性の3人に1人が「本当は専業主婦になりたい」

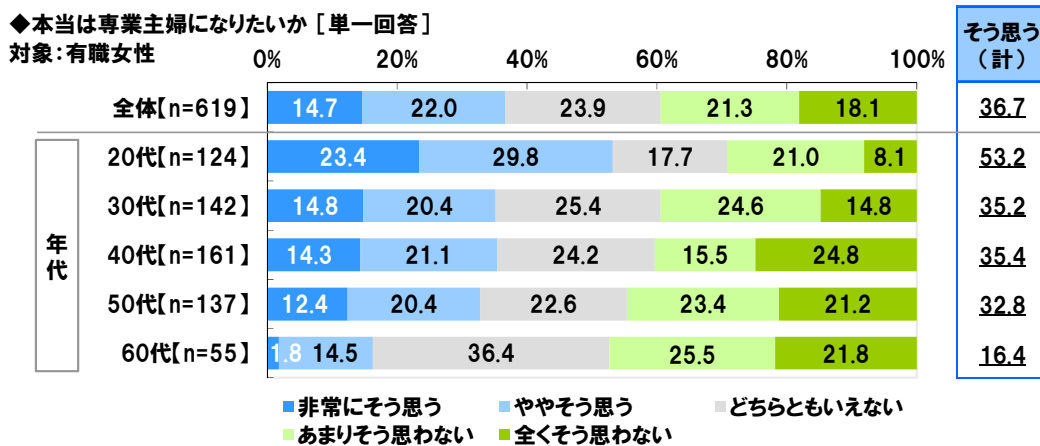
### ◆働く20代女性の葛藤「専業主婦」と「バリキャリ」の選択肢を両にらみ？

### ◆直近4年間で働く女性の「管理職志向」10ポイント超上昇も、根強い「専業主婦志向」

有職女性(619名)に、「本当は専業主婦になりたい」かどうか聞いたところ、『そう思う』は36.7%と、有職女性の3人に1人は専業主婦を志向していることがわかりました。

年代別にみると、『そう思う』は20代で53.2%と全体より16.5ポイント高く、20代女性の専業主婦志向が鮮明となりました。20代では、今後もバリバリと仕事に励みたいというバリキャリ志向と、本当は専業主婦になりたいという専業主婦志向が、同程度の割合で存在しました。夫婦共働きというライフスタイルが浸透しつつある中で、夫婦で家計を担うために仕事を頑張りたいという心情と、本当は家事に専念する専業主婦になりたいという心情の両方を抱える姿が、垣間見える結果といえるのではないのでしょうか。(図9)

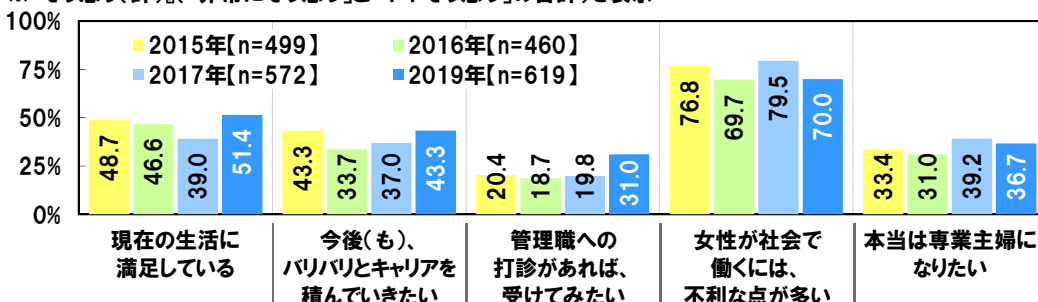
(図9)



過去調査と比較すると、2015年調査より『そう思う』割合が大きく上昇したのは「管理職への打診があれば、受けてみたい」(10.6ポイント上昇)でした。この4年間で、管理職を志向する働く女性は着実に増えているようです。一方で、下降したのは「女性が社会で働くには、不利な点が多い」(6.8ポイント下降)で、働きづらさを感じる働く女性は徐々に減りつつあるようです。また、小幅上昇や横ばいとなったのは、「本当は専業主婦になりたい」(3.3ポイント上昇)、「現在の生活に満足している」(2.7ポイント上昇)、「今後(も)、バリバリとキャリアを積んでいきたい」(2015年調査と同率)でした。管理職志向の女性が増えたり、女性の働きづらさが徐々に解消したりという状況下も、専業主婦志向は根強いという実情が見えました。(図10)

(図10) 経年調査

◆生活や仕事に関する意識 [各単一回答] 対象:有職女性  
※『そう思う(計)』『非常にそう思う』と『ややそう思う』の合計を表示



## NEWS LETTER (調査レポート)

- ◆管理職女性の7割、管理職ワーママの7割半が「管理職になるときは不安だった」
- ◆管理職女性の5割強、管理職ワーママの6割が「管理職になってよかった」
- ◆管理職女性の5割弱、管理職ワーママの6割が「管理職になることはオススメ」
- ◆管理職女性の4割半、管理職ワーママの5割強が「今後さらに上の役職を目指したい」

では、実際に管理職として働いている女性は、自身が管理職になったことをどのように捉えているのでしょうか。

現在管理職に就く女性(100名)に、「管理職になるときは不安だった」かどうか聞いたところ、『そう思う』は70.0%でした。不安を持ちながら管理職に就いたという管理職女性は7割にのびりました。

「管理職になってよかったと思う」かどうか聞いたところ、『そう思う』は53.0%、『そう思わない』は23.0%でした。管理職女性の半数以上が、管理職になってよかったと感じています。

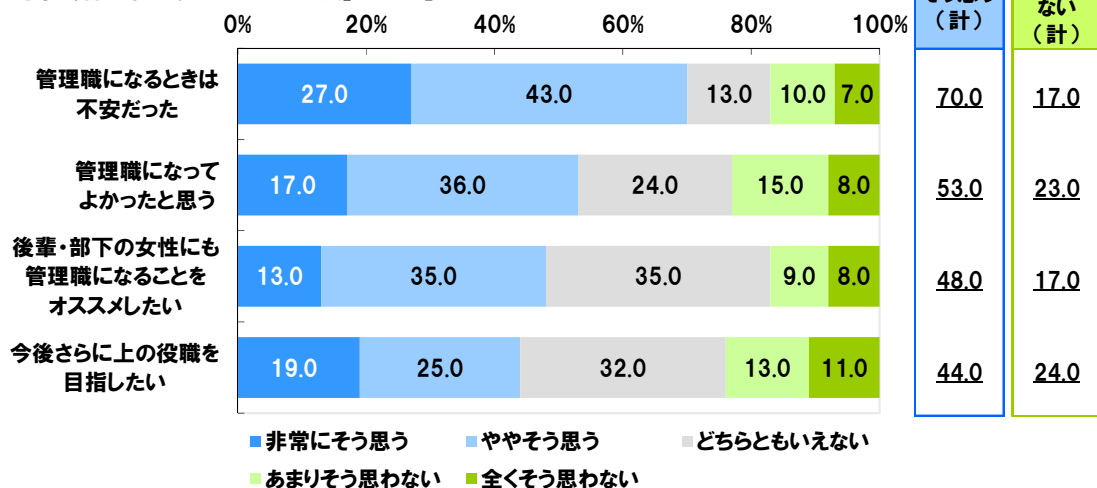
「後輩・部下の女性にも管理職になることをオススメしたい」かどうか聞いたところ、『そう思う』は48.0%でした。管理職女性の2人に1人が、後進に管理職になることをオススメしたいと感じているようです。

「今後さらに上の役職を目指したい」かどうか聞いたところ、『そう思う』は44.0%、『そう思わない』は24.0%でした。管理職女性の4割半が、今後さらに上の役職に挑戦したいというチャレンジ精神を持っていることがわかりました。(図11)

(図11)

◆管理職に関する意識 [各単一回答]

対象:現在、管理職に就いている人[n=100]

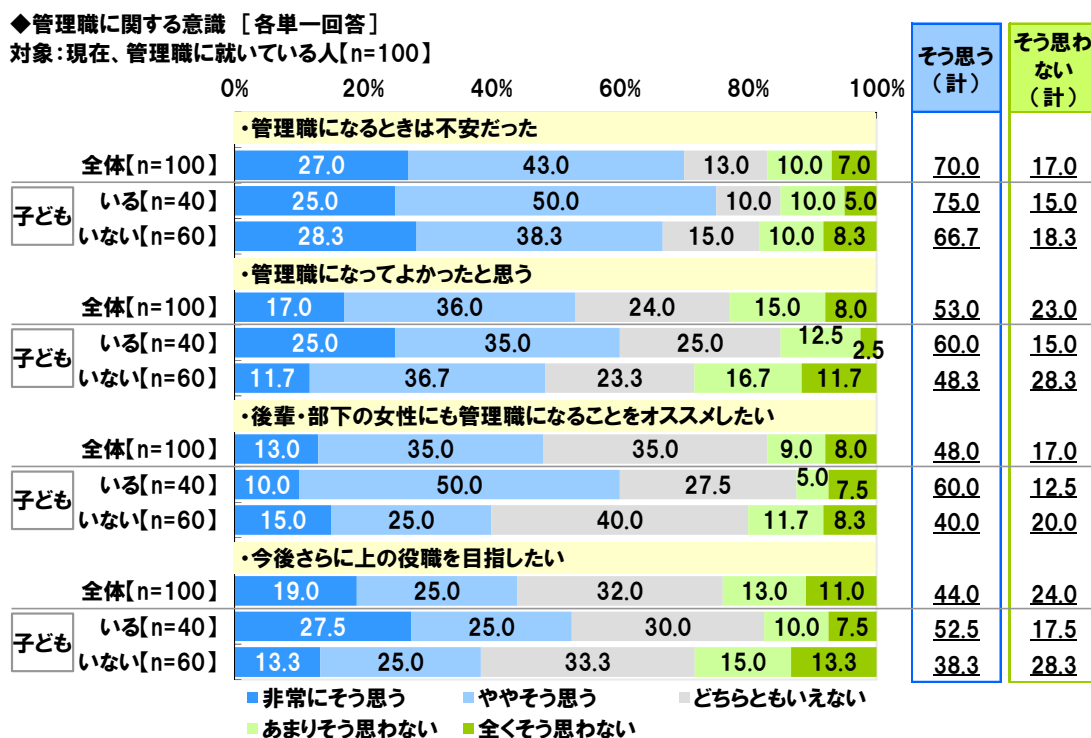


## NEWS LETTER (調査レポート)

子どもの有無別にみると、『そう思う』の割合は、すべての項目において子どものいる管理職女性が全体を上まわっています。管理職ワーママ(40名)では、「管理職になるときは不安だった」に関して、『そう思う』は75.0%、「管理職になってよかったと思う」に関しては、『そう思う』は60.0%、「後輩・部下の女性にも管理職になることをオススメしたい」に関しては、『そう思う』は60.0%、『そう思わない』は僅か12.5%でした。しかも、「今後さらに上の役職を目指したい」かどうか聞いたところ、『そう思う』は52.5%、『そう思わない』は17.5%と、チャレンジ精神を持つ女性が半数を超えました。

管理職ワーママには、管理職に就くときに不安を感じた人が多かったようですが、「管理職になってよかった」、「他の女性にオススメしたい」、「もっと上の役職にチャレンジしたい」と、高い満足や次のステップに向かう意欲を感じている人が多いことがわかりました。(図12)

(図12)



## NEWS LETTER (調査レポート)

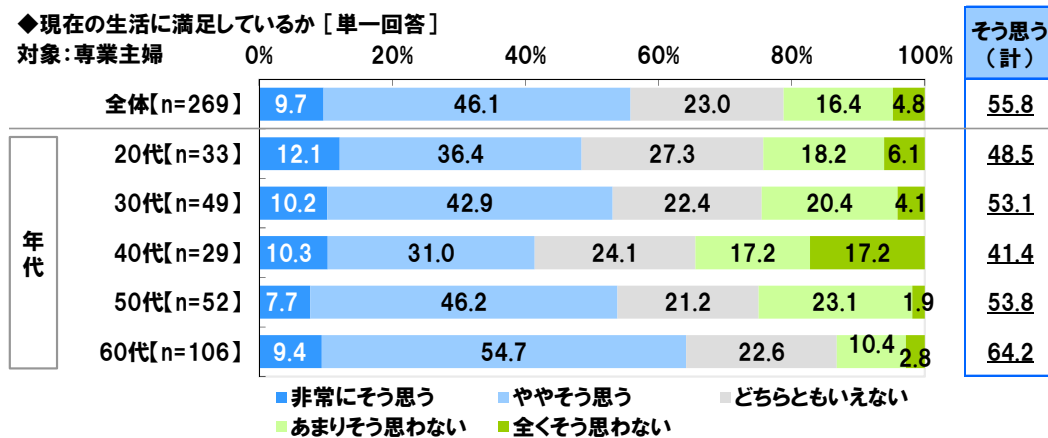
- ◆専業主婦の本音「現在の生活に満足している」は5割半、60代では6割半と高め
- ◆「本当は外に働きに行きたい」専業主婦の3割強、20代では7割、30代では5割強
- ◆「専業主婦は苦勞が多いと思う」20代専業主婦では6割半

一方、専業主婦の本音を探るため、現在や今後の生活、専業主婦を取り巻く環境などについてどのように思うか聞きました。

専業主婦(269名)に、「現在の生活に満足している」かどうか聞いたところ、『そう思う』は55.8%で、専業主婦の5割半が現在の生活に満足していることがわかりました。

年代別にみると、『そう思う』は60代で64.2%と、全体を8.4ポイント上まわり、生活満足度は60代が最も高いことがわかりました。(図13)

(図13)

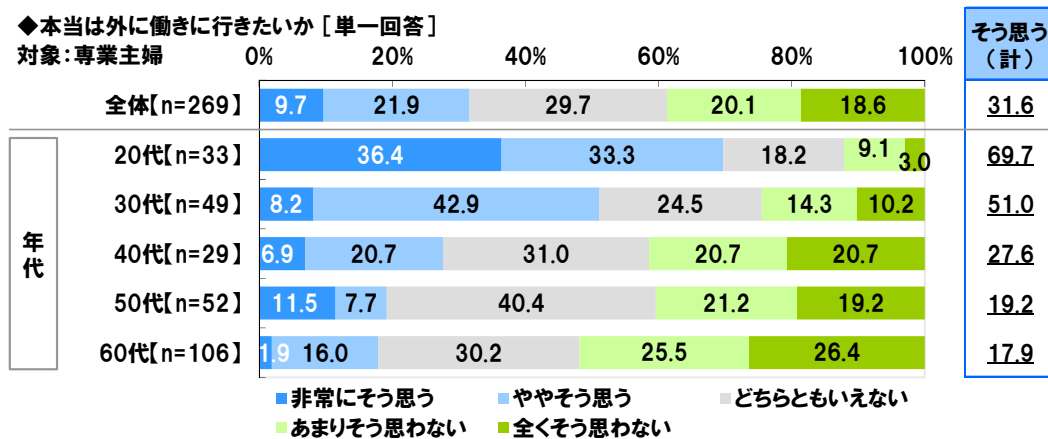


※40代はn数が30未満のため参考値

「本当は外に働きに行きたい」かどうか聞いたところ、『そう思う』は31.6%でした。

年代別にみると、『そう思う』は20代では69.7%、30代では51.0%と他の年代より高くなりました。若い年代の専業主婦には、内心は外に働きに出たいと感じている人が多いことがわかりました。(図14)

(図14)



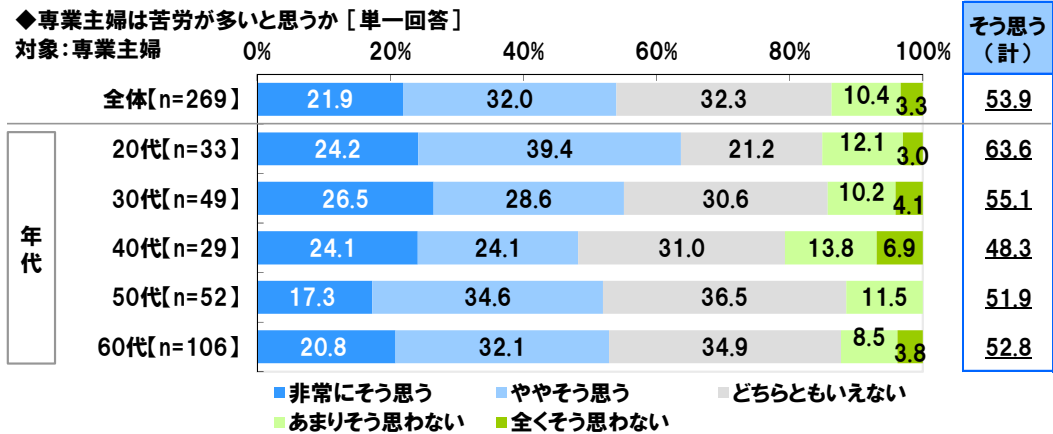
※40代はn数が30未満のため参考値

## NEWS LETTER (調査レポート)

「専業主婦は苦勞が多いと思う」かどうか聞いたところ、『そう思う』は53.9%でした。

年代別にみると、『そう思う』は20代では63.6%と全体より9.7ポイント高くなりました。専業主婦として家事を一手に引き受ける中で、20代は慣れない家事や育児に苦勞しているのかもしれませんが。(図15)

(図15)



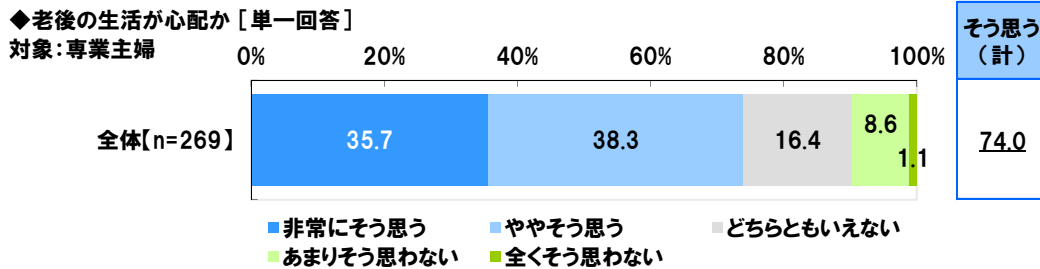
※40代はn数が30未満のため参考値

## NEWS LETTER (調査レポート)

- ◆専業主婦の7割半が「老後の生活が心配」、7割が「子育て後の再就職は厳しい」と実感
- ◆専業主婦の生活意識に変化 直近4年間で「専業主婦は苦勞が多い」が8ポイント超上昇

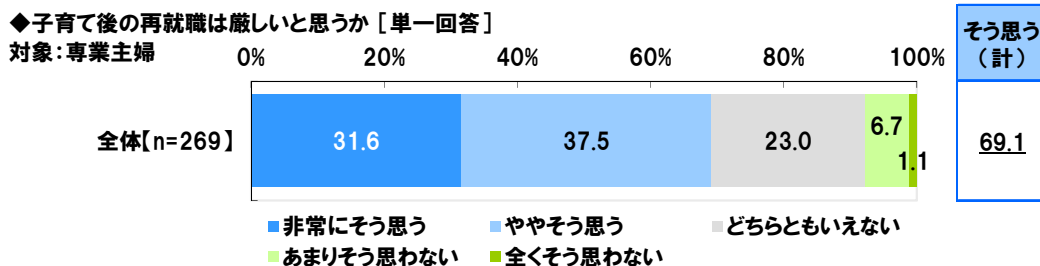
専業主婦(269名)に、「老後の生活が心配」かどうか聞いたところ、『そう思う』は74.0%でした。専業主婦の4人に3人が老後の生活設計に不安を感じています。(図16)

(図16)



「子育て後の再就職は厳しいと思う」かどうか聞いたところ、『そう思う』は69.1%でした。子育てを終えた後の再就職状況に悲観的なイメージを持つ専業主婦が多いようです。(図17)

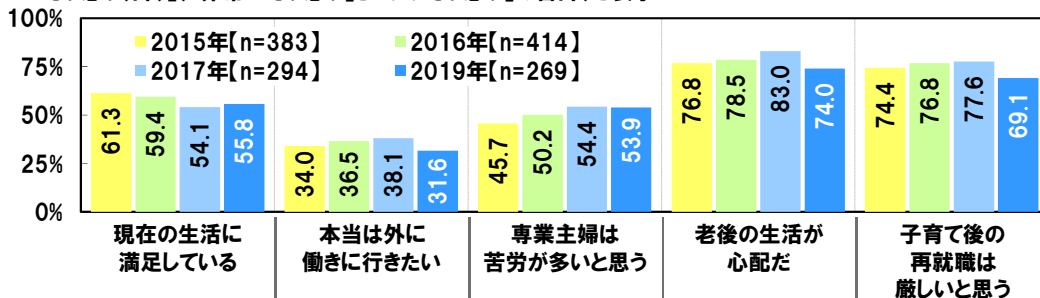
(図17)



過去調査と比較すると、2015年調査より『そう思う』割合が大きく上昇したのは「専業主婦は苦勞が多いと思う」(8.2ポイント上昇)でした。一方で、下降したのは「現在の生活に満足している」(5.5ポイント下降)、「子育て後の再就職は厳しいと思う」(5.3ポイント下降)でした。専業主婦の生活満足度は過去調査のいずれも5割を超えたものの、下降傾向にあるようです。また、小幅下降となったのは、「老後の生活が心配だ」(2.8ポイント下降)、「本当は外に働きに行きたい」(2.4ポイント下降)でした。(図18)

(図18) 経年調査

◆生活や仕事に関する意識 [各単一回答] 対象:専業主婦  
※『そう思う(計)』(「非常にそう思う」と「ややそう思う」の合計)を表示



## NEWS LETTER (調査レポート)

### ◆女性活躍促進には「保育や介護支援の公的サービスの充実が必要」8割半が賛同

### ◆「夫の家事分担比率の上昇」や「職場男性の意識改革」を求める声が大多数を占める

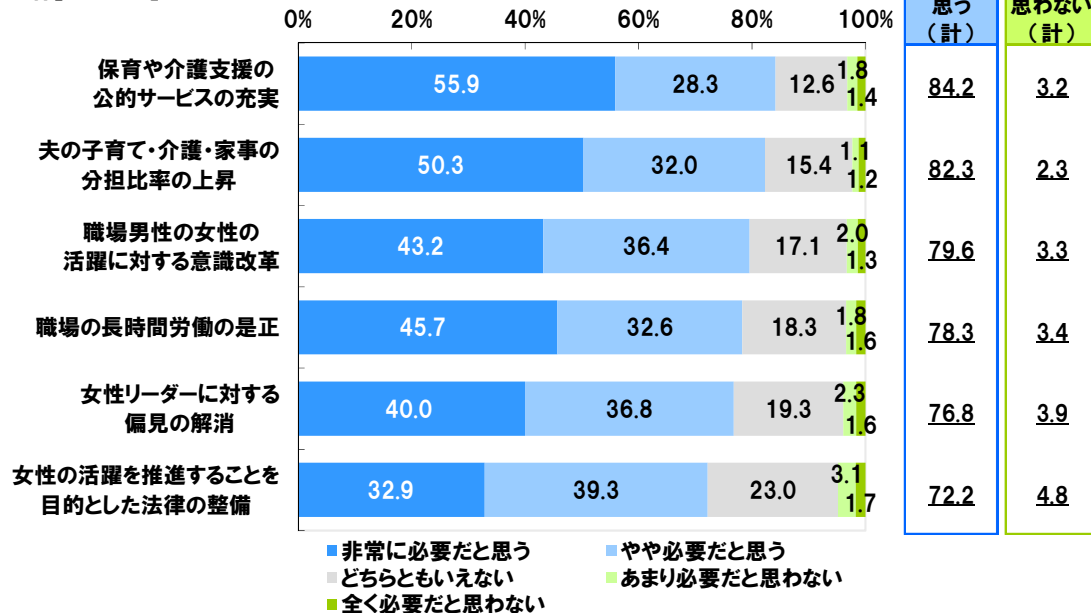
全回答者(1,000名)に、仕事で女性が活躍するために、国の施策や職場の改革、子育て・介護・家事の支援などが、どの程度必要だと思うか聞きました。

『必要だと思う』(「非常に」と「やや」の合計、以下同様)の割合が最も高かったのは「保育や介護支援の公的サービスの充実」(84.2%)、次いで「夫の子育て・介護・家事の分担比率の上昇」(82.3%)、「職場男性の女性の活躍に対する意識改革」(79.6%)となりました。さらに、「職場の長時間労働の是正」(78.3%)、「女性リーダーに対する偏見の解消」(76.8%)、「女性の活躍を推進することを目的とした法律の整備」(72.2%)と続きました。

女性が仕事で活躍するために、強く求められていることは、子育てや介護に対する公的な支援という結果となりました。また、次いで多かったのは男性の意識改革を望む声でした。「女性活躍推進法」施行から3年経過した現在、女性活躍促進には、パートナーや職場の男性など身近な人の意識改革が急務といえるのではないのでしょうか。(図19)

(図19)

#### ◆女性の活躍促進のために必要な改革についての意識 [各単一回答] 全体[n=1000]



## NEWS LETTER (調査レポート)

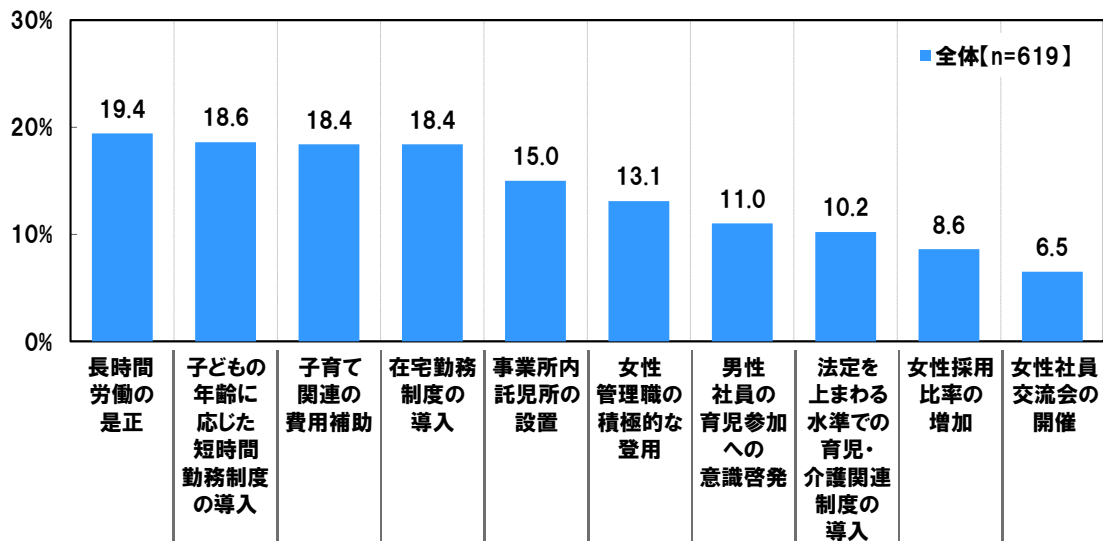
### ◆働く女性が求める、勤務先による女性活躍支援 1位「長時間労働の是正」

女性活躍促進のための取組みとして、職場で求められているのはどのような制度でしょうか。

有職女性(619名)に、女性活躍支援のために勤務先で行ってほしいことを聞いたところ、1位は「長時間労働の是正」(19.4%)となりました。長時間労働の是正には、女性がフルタイムで働きながら、仕事と家事・子育てを両立できるようになるといったメリットがあります。さらに、男性の家事や子育て参加を促進する効果が期待されます。また、2位は「子どもの年齢に応じた短時間勤務制度の導入」(18.6%)、3位は「子育て関連の費用補助」「在宅勤務制度の導入」(ともに18.4%)、5位は「事業所内託児所の設置」(15.0%)となりました。上位5位中に“子育て支援”に関連した制度が3つランクインした結果から、働く女性が育児で苦勞している実態が浮かび上がりました。(図20)

(図20)

◆自身の勤め先で、女性の活躍支援のために行ってほしいと思うこと [複数回答] ※上位10位までを表示  
対象:有職女性





## NEWS LETTER (調査レポート)

### ◆職場で導入されている女性活躍支援 1位「子どもの年齢に応じた短時間勤務制度」

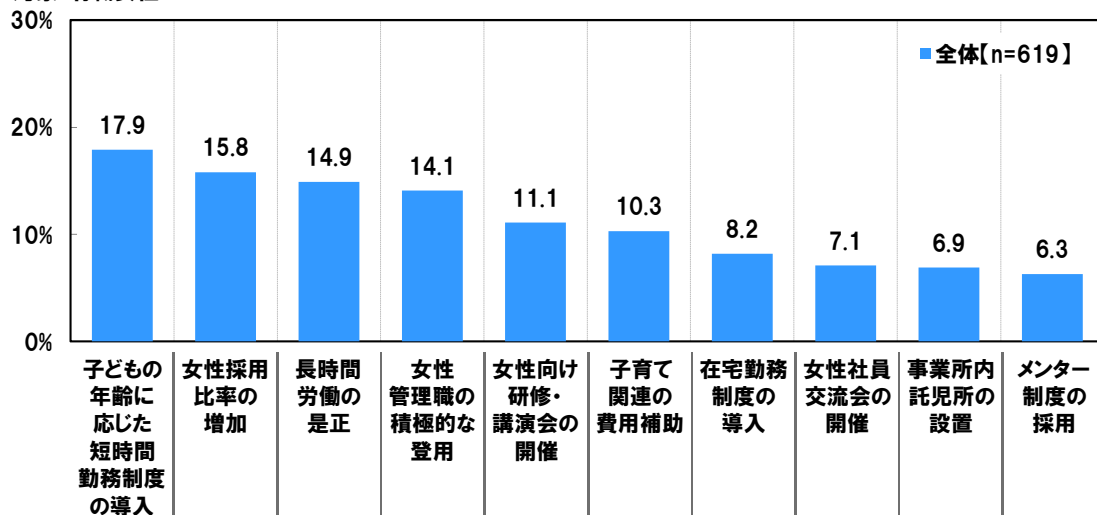
では、女性活躍促進のために実際に職場で導入されているのは、どのような制度でしょうか。

有職女性(619名)に、女性活躍支援のために勤務先で行われていることを聞いたところ、1位は「子どもの年齢に応じた短時間勤務制度の導入」(17.9%)となりました。そして、2位「女性採用比率の増加」(15.8%)、3位「長時間労働の是正」(14.9%)、4位「女性管理職の積極的な登用」(14.1%)、5位「女性向け研修・講演会の開催」(11.1%)が続きました。勤務先で行ってほしいことで上位5位にランクインした制度の導入状況を見ると、「子育て関連の費用補助」は10.3%、「在宅勤務制度の導入」は8.2%、「事業所内託児所の設置」は6.9%と、実際の導入率は低くなりました。勤務先による女性活躍支援に関して、働く女性の希望と職場の現実には隔たりがあるようです。(図21)

(図21)

◆自身の勤め先で、女性の活躍支援のために行われていること [複数回答] ※上位10位までを表示

対象:有職女性



## NEWS LETTER (調査レポート)

- ◆“多様な働き方”推進！職場に欲しい制度 1位「在宅勤務」2位「時短勤務」3位「フレックス制」
- ◆「社内保育園」を求める女性は3割半、「子連れ出勤」は2割強
- ◆子どもがいる専業主婦が求める制度 1位「在宅勤務」2位「社内保育園」3位「時短勤務」

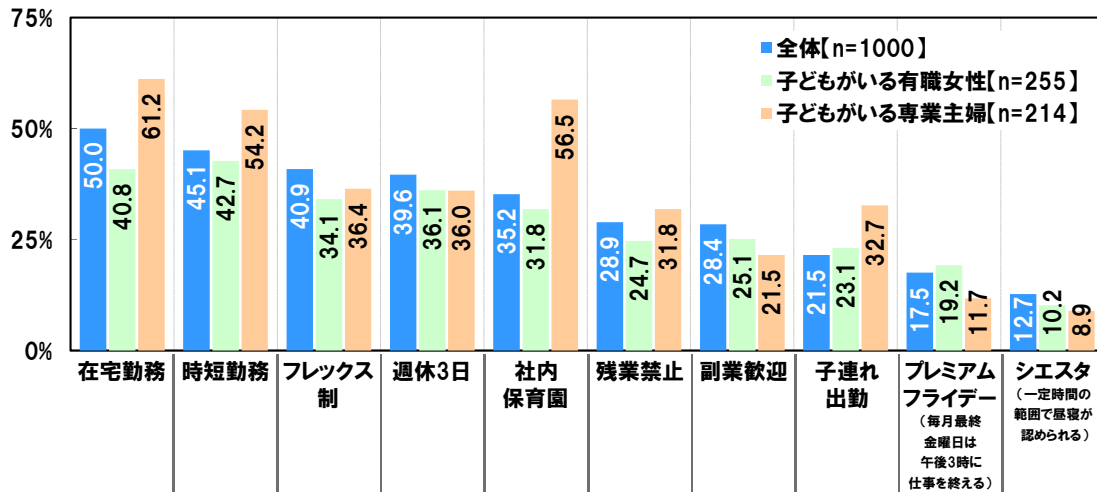
多様な働き方やユニークな制度を取り入れる企業が増えています。多様な働き方という観点では、どのような制度が求められているのでしょうか。

全回答者(1,000名)に、どのような働き方や制度が職場にあると良いと思うか聞いたところ、最も多かったのは「在宅勤務」(50.0%)、「時短勤務」(45.1%)、「フレックス制」(40.9%)となりました。働く場所や時間に柔軟性をもたせることで、多様なワークスタイルを実現する制度が上位に挙がりました。さらに、「週休3日」(39.6%)、「社内保育園」(35.2%)、「残業禁止」(28.9%)と続きました。業務時間を短くして、ワークライフバランスを実現する制度を求める意見も多いようです。また、「社内保育園」は「子連れ出勤」(21.5%)より上位となりました。社内保育園があれば、職場で子どもの世話をしながら仕事をするよりも、業務に集中できると考える女性が多いのかもしれませんが。

就業状況と子どもの有無別にみると、子どもがいる専業主婦では「在宅勤務」(61.2%)を求める声が多く、次いで「社内保育園」(56.5%)、「時短勤務」(54.2%)となりました。これらの制度が整うならば仕事に就きたいと考えている専業主婦ママは多いのではないのでしょうか。(図22)

(図22)

◆どのような働き方や制度が職場にあると良いと思うか [複数回答] ※上位10位までを表示



## NEWS LETTER (調査レポート)

### ◆“活躍している女性”として思い浮かぶ有名人 スポーツ分野では「大坂なおみさん」がダントツ ◆芸能分野で“活躍している女性”として思い浮かぶ有名人 1位「北川景子さん」

全回答者(1,000名)に、“活躍している女性”として思い浮かぶ有名人を、スポーツと芸能の2つのジャンルに分けて聞きました。

まず、スポーツ分野では、「大坂なおみさん」がダントツとなり、2位は「吉田沙保里さん」、3位は「浅田真央さん」となりました。

回答者が選んだ理由をみると、大坂なおみさんについては、「日本人初のランキングナンバーワンという偉業を成し遂げたから」(50代)や「世界を舞台に活躍する一流の女性だと思うから」(40代)といったコメントが多くみられました。また、吉田沙保里さんについては、「世界制覇を何度も成し遂げ、スポーツ界を牽引したから」(40代)、浅田真央さんについては、「いろいろなことに挑戦しているイメージがあるから」(20代)といった理由が挙げられました。

芸能分野についてみると、1位「北川景子さん」、僅差で2位「天海祐希さん」、3位「綾瀬はるかさん」となりました。

回答者が選んだ理由をみると、北川景子さんについては、「結婚してもバリバリ仕事をしているから」(30代)、天海祐希さんについては、「女性としてあこがれる存在。キャリアのある女性を演じることが多いから」(50代)、綾瀬はるかさんについては、「見ない日はないほど活躍しており、好感度もあるから」(50代)といったコメントが挙げられました。(図23)

(図23)

#### ◆“活躍している女性”として思い浮かぶ有名人 [各自由回答] ※上位10位までを表示 全体[n=1000]

スポーツ分野			芸能分野		
	スポーツ分野	人		芸能分野	人
1位	大坂なおみ	246	1位	北川景子	28
2位	吉田沙保里	92	2位	天海祐希	27
3位	浅田真央	58	3位	綾瀬はるか	23
4位	池江璃花子	51	4位	黒柳徹子	22
5位	澤穂希	38	5位	安室奈美恵	21
6位	紀平梨花	25		木下優樹菜	21
	小平奈緒	25	7位	指原莉乃	20
8位	伊調馨	24	8位	石原さとみ	19
9位	福原愛	18	9位	辻希美	17
10位	谷亮子	15	10位	安藤サクラ / 渡辺直美 吉永小百合	各15

## NEWS LETTER (調査レポート)

- ◆“活躍している女性”として思い浮かぶアニメ・マンガキャラ 1位「フグ田サザエ」
- ◆“職場の同僚になってほしい男性”のイメージ 3位「江戸川コナン」、2位と1位は？
- ◆“職場の部下になってほしい男性”のイメージ TOP3には『ドラえもん』から2人がランクイン

続いて、アニメやマンガのキャラクターについて聞きました。

“活躍している女性”として思い浮かぶアニメ・マンガのキャラを聞いたところ、1位は「フグ田サザエ」、2位は「ナミ」、3位は同数で「月野うさぎ」「峰不二子」となりました。長年にわたって幅広い世代から愛されている『サザエさん』の主人公であるサザエさんを、活躍している女性とイメージしている人が多いようです。(図24)

(図24)

- ◆“活躍している女性”として思い浮かぶアニメ・マンガのキャラ [自由回答]
- ※上位10位までを表示

全体[n=1000]

	アニメ・マンガのキャラ	人
1位	フグ田サザエ(サザエさん)	66
2位	ナミ(ONE PIECE)	38
3位	月野うさぎ(美少女戦士セーラームーン)	34
	峰不二子(ルパン三世)	34
5位	さくらももこ(ちびまる子ちゃん)	25
	オスカル・フランソワ・ド・ジャルジエ(ベルサイユのばら)	11
6位	ナウシカ(風の谷のナウシカ)	11
	毛利蘭(名探偵コナン)	11
9位	キティ・ホホワイト(ハローキティ)	10
	野原みさえ(クレヨンしんちゃん)	10

また、理想の同僚や理想の部下に関するイメージについて聞いたところ、“職場の同僚になってほしい男性”として思い浮かぶアニメ・マンガのキャラでは、1位「ドラえもん」、2位「フグ田マスオ」、3位「江戸川コナン」、「職場の部下になってほしい男性」として思い浮かぶアニメ・マンガのキャラでは、1位「江戸川コナン」、2位「ドラえもん」、3位「出木杉英才」となりました。(図25)(図26)

(図25)(図26)

- ◆“職場の同僚になってほしい男性”として思い浮かぶアニメ・マンガのキャラ [自由回答]
- ※上位10位までを表示

全体[n=1000]

	アニメ・マンガのキャラ	人
1位	ドラえもん(ドラえもん)	42
2位	フグ田マスオ(サザエさん)	23
3位	江戸川コナン(名探偵コナン)	20
4位	工藤新一(名探偵コナン)	17
5位	サンジ(ONE PIECE)	16
6位	ルパン三世(ルパン三世)	15
7位	牙羽猿(シティーハンター)	14
8位	モンキー・D・ルフィ(ONE PIECE)	12
	野原ひろし(クレヨンしんちゃん)	12
10位	アンパンマン(それいけ!アンパンマン)	10
	両津勘吉(こちら葛飾区亀有公園前派出所)	10

- ◆“職場の部下になってほしい男性”として思い浮かぶアニメ・マンガのキャラ [自由回答]
- ※上位10位までを表示

全体[n=1000]

	アニメ・マンガのキャラ	人
1位	江戸川コナン(名探偵コナン)	42
2位	ドラえもん(ドラえもん)	31
3位	出木杉英才(ドラえもん)	19
4位	モンキー・D・ルフィ(ONE PIECE)	16
5位	野比のび太(ドラえもん)	15
6位	トニートニー・チョッパー(ONE PIECE)	12
	工藤新一(名探偵コナン)	12
8位	アンパンマン(それいけ!アンパンマン)	10
9位	フグ田マスオ(サザエさん)	8
10位	野原しんのすけ(クレヨンしんちゃん)	各7
	サンジ(ONE PIECE) / 磯野カツオ(サザエさん)	

## NEWS LETTER (調査レポート)

注: 本調査レポートの百分率表示は小数点第2位で四捨五入の丸め計算を行っているため、合計しても100%とならない場合がございます。

また、属性別集計において抜粋して表示している場合は、n数を合計しても全体と一致しない場合がございます。

### 《調査概要》

- ◆調査タイトル : 女性の活躍に関する意識調査2019
- ◆調査対象 : ネットエイジアリサーチのモニター会員を母集団とする  
全国の20歳～69歳の女性
- ◆調査期間 : 2019年3月15日～3月19日
- ◆調査方法 : インターネット調査
- ◆調査地域 : 全国
- ◆有効回答数 : 1,000サンプル(有効回答から各年代が均等になるように抽出)  
  
(内訳)各年代のサンプル数は以下のとおり  
20代:200s/30代:200s/40代:200s/50代:200s/60代:200s
- ◆調査協力会社 : ネットエイジア株式会社

### ■■報道関係の皆様へ■■

本ニュースレターの内容の転載にあたりましては、  
「ソニー生命調べ」と付記のうえご使用いただきますよう、お願い申し上げます。

### ■■本調査に関するお問い合わせ窓口■■

ソニー生命保険株式会社 広報部 広報課 丸山、大金  
電話番号 : 03-5290-6228

### ■■会社概要■■

会社名 : ソニー生命保険株式会社  
代表者名 : 代表取締役社長 萩本 友男  
設立 : 1979(昭和54)年8月  
所在地 : 東京都千代田区大手町 1-9-2 大手町フィナンシャルシティ グランキューブ  
業務内容 : 生命保険業